

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093100172		
法人名	社会福祉法人 創生会		
事業所名	グループホーム イコロの里		
所在地	福岡県春日市平田台1丁目138番2号 (電話) 092-595-8681		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 1 日	評価結果確定日	令和 4 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

敷地内には広大な庭園があり、季節に合わせた花を觀賞しながら、いつでも気軽に散歩ができる環境になっています。庭園内の畑には様々な野菜が植えられており、入居者様と共に旬の野菜を収穫し日々の食材に使用しています。
更に、年間を通じて様々な行事（夏祭り、敬老会、忘年会など）を開催し、ご家族にも参加していただくことで、入所者様や職員との親睦を深め信頼関係を築いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 27 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街に位置する、1階建ての木造風平屋建ての事業所である。敷地内に有料老人ホームがあり、合同で夏祭りを開催する等の交流がある。散歩コースになっている庭園は、四季折々の花を楽しむことができ、畑で収穫した野菜が食卓に出ることもある。駐車場にテーブルを出して、桜の花見やお茶を楽しんでいる。近くにはショッピングセンターやコンビニ、公園があり、自然と利便性が共存した生活しやすい環境である。リビングや居室は明るく、季節に応じた飾りつけがされ、家庭的な雰囲気となっている。職員・利用者共に笑顔が絶えない、安心して穏やかに過ごせる事業所を目指している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。	具体的な言葉で分かりやすい事業所独自の理念があり、地域活動に参加する等、地域密着の視点を反映している。事業所の理念は事務所に掲示され、朝礼で唱和している。ミーティング等で理念の内容を再認識し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染症の影響を考え、外部との交流は控えているが、流行が治まれば、日常の買い物などで地域との交流を図る予定である。	コロナ禍前は、清掃や廃品回収等の地域活動へ参加したり、七夕やクリスマスの飾りつけを小学生と一緒にする等のほか、有料老人ホームと合同での事業所の夏祭りに地域の人来てもらっていた。現在は、対面での交流はないが、小学生から寄せ書きを持ってきてもらう等の交流がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症に関する研修の報告をすることで、ご家族や地域の方々に向けて発信している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などはその後のサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回実施している。コロナ禍の影響で書面での開催が多い。利用者のサービスや評価の取り組みについて報告し、意見を書面でもらっている。服薬管理のチェック体制について助言があり、その意見を取り入れる等サービスの向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。また、なにかあれば都度問い合わせるようにしている。	日頃より市担当課との交流がある。月1回、地域密着型サービス事業所の交流会が市役所で開催され、その時に意見交換等を行っている。コロナ禍前は小学生の認知症サポーターの支援をしていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。	日中、玄関や居室は施錠されていない。外出傾向や帰宅願望のある利用者には、職員が付き添い、一緒に外に出るようにしている。年2回、身体拘束についての内部研修が実施されており、月1回ミーティングで意見交換をしている。研修の記録や資料についても整備されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し、異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見制度などの権利擁護制度の理解を深めている。 ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。	権利擁護に関する制度については、必要に応じて家族に説明している。年1回、権利擁護について内部研修を実施し、テキストやパンフレット等の資料や研修記録についても整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また、外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。	職員は日頃から利用者の要望や思いを聴くよう努めている。いなり寿司を食べたいという希望があり、敬老会の弁当にいなり寿司を入れる等、利用者の要望を取り入れるようにしている。家族には、近況報告時に要望等を確認し、家族の意見を反映するように心がけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。 また、必要に応じてその後の対応に反映させている。	管理者は、月1回のミーティングのほか、必要に応じて個別に職員の意見を聴くようにしている。ミーティングに参加できない職員からはメモで意見をもらっている。トイレ誘導の方法や食事の形態、業務内容の割り振り等、職員から出た意見を運営に反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保障されるように配慮している。	採用選考では、意欲や人柄を重視し、性別や年齢、学齢等を理由に採用対象から排除していない。定年はあるが、勤務継続を希望される時は、雇用を継続することが可能である。管理者は、資格取得や勤務時間帯、休日等の希望に関して、可能な範囲で対応し、安心して働ける職場環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	高齢者の人権を中心に年1回、内部研修を実施し、資料やテキスト、研修記録についても整備されている。研修に参加できなかった職員には研修内容を伝達している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。また、その可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの場所に出かけられるように支援していきたい。	利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から日常の会話や聞き取り等で情報を得ている。家族や知人との窓越しでの面会や、年賀状や電話での交流の支援等、つながりが継続できるようにしている。コロナ禍前は家族に協力してもらい、お墓参りや馴染みの店の買い物に行っていた。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向を伺えるよう努めている。	職員は、日々の関わりの中で本人の思いを把握し、理解するように努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から本人の思い等を情報収集し、本人の視点に立って話し合い、その人らしく暮らせるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。	3ヶ月に1回、本人や家族の意向、記録や現場での気付き等を踏まえ、関係者で話し合っって作成している。また、心身状態に応じて柔軟に見直し、利用者主体の暮らしを支援する介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気付き等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診、訪問診療を支援している。基本は家族が同行して受診を支援しているが、状況に応じて職員も付き添い、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。受診結果は、職員が家族に連絡して共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向けて病院関係者と連絡を取るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族お知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。	看取りに関する指針を作成し、利用開始時に説明している。事業所の夜間はオンコール体制に基づいた緊急対応を行っている。利用者が安心して最期の時間をその人らしく過ごせるように、事業者が対応し得る支援方法を関係者で話し合っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行うことで、災害時入居者が避難できるようにしている。また、地域と協力できるように公民館に連絡が取れるようにしている。	年2回、利用者と職員と一緒に、昼間、夜間を想定した避難訓練を行っており、事前に公民館や運営推進会議で避難訓練について知らせている。訓練後は参加者からもらった意見を災害対策に活かすように取り組んでいる。また、備蓄リスト表を作成し、非常用食料や飲料水、トイレ等の備品を準備をしている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	利用者は人生の先輩であり、その人らしい尊厳ある姿を大切に、プライバシーに配慮した対応を行っている。職員は、定期的に内部研修を受講し、日頃の関わり方を管理者や職員同士で点検し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。検食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。	食材は、利用者の好みの献立を考慮して発注している。味付けや器に拘り、家庭的な雰囲気、刻み食やソフト食、とろみ食等、利用者の状態に合わせて提供している。利用者と一緒に畑で掘った芋で、芋の煮つけを作ったり、誕生日のケーキを提供したり、仕出し弁当等を利用して食事を楽しめるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。	利用者の排泄の間隔や兆候を把握しており、身体機能に応じてさりげなく誘導を行っている。介護用品の使用は、利用者の状態に合わせて検討している。利用者がトイレで気持ちよく排泄できるように自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方の便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人1人の状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。	週2回以上の設定はあるが、入浴日の変更や毎日の入浴も可能で、入浴の無理強いはせず時間をかけて声かけや誘導を行っている。脱衣室ではクラシックを流し、くつろいだ気分で入浴できるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症の影響で、現在外出はなるべく控えているが、可能であれば入居者様の希望に合わせて、中庭の散歩などの支援を行っている。	天気や利用者の体調に応じて、中庭の散歩に出かけている。また、庭の桜やコスモスが咲いている時期には、駐車場にテーブルを置いて、お茶をする等、利用者が楽しめるよう工夫している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。 ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気を大切に環境づくりを心掛けている。 また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけを行っている。	共有空間は、整理整頓・清潔清掃に努め、感染症対策をし、面会スペースを整えている。リビングと和室がオープンで、利用者同士の関係性に配慮してテーブルや席を設置し、利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して気持ちよく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居者様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。	各居室にメモリアルボックスを設置し、家族の協力を得て、写真や思い出の品を入れている。室内は利用者の状態に合わせてベッドが設置され、使い慣れたテレビや椅子、家族写真、手作りの小物等が持ち込まれ、利用者がこれまでの暮らしを継続でき、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
			○	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナウイルス感染症の影響を考え、外部との交流は控えているが、流行が治まれば、日常の買い物などで地域との交流を図る予定である。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症に関する研修の報告をすることで、ご家族や地域の方々に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などはその後のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。また、なにかあれば都度問い合わせるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し、異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見制度などの権利擁護制度の理解を深めている。 ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また、外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。 また、必要に応じてその後の対応に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保障されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。 また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。また、その可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。また、馴染みの場所に出かけられるように支援していきたい。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向を伺えるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向けて病院関係者と連絡を取るようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族にお知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行うことで、災害時入居者が避難できるようにしている。また地域と協力できるように公民館に連絡が取れるようにしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。検食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し、入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方の便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人1人の状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症の影響で、現在外出はなるべく控えているが、可能であれば入居者様の希望に合わせて中庭の散歩などの支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。 ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気大切に環境づくりを心掛けている。 また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居者様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない